令和 7 年 11 月 30 日発行　第 9 巻
Vol. 9, NOV. 2025

九州人工透析研究会誌

Journal of Kyushu Society for Dialysis Therapy

令和 7 年 11 月 30 日　第 9 巻

第 56 回九州人工透析研究会を振り返って

長崎大学病院 腎臓内科 西野友哉

2024 年 12 月 15 日（日），長崎市「出島メッセ長崎」において，第 56 回九州人工透析研究会を開催いたしました．九州・沖縄各県より 1,056 名のご参加を賜り，盛会のうちに幕を閉じることができました．ご参加くださいました皆さま，ならびに運営にご尽力いただきました関係各位に，心より御礼を申し上げます．

長崎での開催は 2015 年以来 10 年ぶりであり，その間に街並みは大きく変貌を遂げました．とりわけ長崎駅周辺は「百年に一度」といわれる都市開発が進み，本研究会のテーマ「長崎游学　～鶴の港から望む新しい景色～」のとおり，歴史の風を感じつつも新たな景観のもとで会を開くことができました．

特別講演では，長崎大学名誉教授 兼松隆之先生より，洞窟壁画から近代絵画に至るまでの多彩な作品を通じて，美術と医学の深遠なる関わりを紐解く格調高いご講演を賜りました．また，AIM 医学研究所代表理事・所長 宮崎徹先生からは，「AIM による末期腎不全に対する新しい医療」と題し，ヒトおよびネコを対象とした創薬研究を含む，腎不全治療の未来を展望するご講演をいただきました．

さらにシンポジウムでは，長崎にゆかりのある第一線の女性医師の先生方にご登壇いただき，「ダイバーシティの推進」を主題に，透析医療における多様性の尊重と次世代人材の育成について活発な議論が交わされました．加えて，腎代替療法の選択における多職種連携をテーマとした企画も展開され，会場は大いに盛り上がりました．

今回の総演題数は 200 題を超え，コロナ禍以前の活気を取り戻したことを改めて実感いたしました．鶴の港と称される長崎港は，その穏やかな海の先に荒波が広がり，かつて志士たちはそこから未来を切り拓く志を抱いたと伝えられています．本研究会においても，透析医療が直面する数々の課題を真正面から見据え，皆さまとともに新たな展望を共有できたことは大きな成果であったと思っております．

本大会が，九州・沖縄地区における透析医療に携わる医師，看護師，臨床工学技士をはじめとする多職種の交流と研鑽の一助となり，九州人工透析研究会が今後ますます発展を遂げていくことを心より祈念申し上げます．